

2026 (令和8)年度東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

言語研修生募集要項

ILCAA Intensive Language Courses 2026

言語研修について

言語研修はアジア・アフリカ言語文化研究所(AA研)の研究者養成事業の一環で、主にアジア・アフリカ地域での現地調査・研究や専門的業務に役立つ現地語の習得を目的としています。また、開講言語によっては現地調査における言語記述の手法(フィールド・メソッド)を身につけることができます。いずれの言語も専門研究者と母語話者がペアで講師を務める点が特徴です。大学在学学生、大学卒業者または上記の目的に必要な学力及び動機をお持ちの方であれば、どなたでもご応募いただけます。

募集言語について

ブラーフイー語、ナワトル語

各言語の研修期間、研修時間など、研修内容についての詳細は、それぞれのページをご覧ください。
※諸事情により、日程・開催時間が変更となる可能性があります。

募集定員について

各言語 約10名 (当研究所で書類審査により選考します。)

募集期間について

募集期間:2026年5月14日(木)～2026年6月18日(木)

6月11日(木)エントリー締切、18日(木)書類アップロード締切。

[主催/企画] 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 <https://www.aa.tufs.ac.jp/>

応募方法について

所定の受講申込書に必要事項をご記入の上、在学証明書または最終学校の卒業証明書(写)を添えて、お申し込みください。

※申し込みは、Web上でのみ受け付けます。

※当研究所ウェブサイト(<https://www.aa.tufs.ac.jp/projects/training/ilc/>)のエントリーボタンより、必要事項を入力し、エントリーをしてください。自動返信メールに書類アップロード先のURLが記載されていますので、期日までに必要書類を提出してください。

※申込書に記入いただくEメールアドレス宛に選考結果通知のPDFをお送りしますので、ilcaa-ilc@tufs.ac.jp からPDFファイルが受信できるアドレスをご記載ください。

問い合わせ先について

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所2階206室
研究協力課共同研究拠点係
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
TEL 042-330-5600, FAX 042-330-5610
Email ilcaa-ilc@tufs.ac.jp

選考結果について

受講の可否は、7月下旬に本人あてにEメールにて通知します。

受講手続きについて

受講を許可された方は、所定の期日までに、研修言語ごとに定められた額の受講料を一括納付してください。

受講料等は各言語のページをご覧ください。

受講料振込先情報および振込期日は、選考結果通知に記載してあります。

口座振込に係る手数料はご負担をお願いいたします。

授業の実施方法について

原則として対面で行います。ただし、社会情勢の変化などにより、全日程をオンライン授業に切り替える場合があります。**災害時の休講の際の補講は行いません。**

修了要件と修了証書について

研修言語ごとに定められている授業時間数の3分の2以上出席し、かつ所定の成績を収めた受講者に修了証書を交付します。

文化講演について

研修の一部として担当講師以外の外部講師を招き文化講演を行います。

文化講演は一般向けに公開することがあります。

履修を希望する場合の手続きについて

言語研修の履修を希望する東京外国語大学の学生および特別聴講学生は、別途、履修ガイドンス**(3月予定)**への参加および所定の手続きが必要です。詳細は当研究所ウェブサイトにてお知らせいたします。(https://www.aa.tufs.ac.jp/projects/training/ilc/)

※単位互換制度に基づく特別聴講学生は別途、所属大学での単位互換申請手続きが必要です。

選考結果の通知は4月を予定しています。受講料は不要です。

受講までの流れ

受講申込



P.1記載の「応募方法について」に従ってお申し込みください。

確認メール送信



書類提出後、確認メールをお送りします。

選考結果通知をメール送信



選考を通過された方には、受講料等の振込先および、初日の集合時間等についても、あわせてご案内いたします。

受講料振込



通知書に記載された期日までに、受講料等をお振込みください。
振込手数料は自己負担となります。

受講料振込確認メール送信



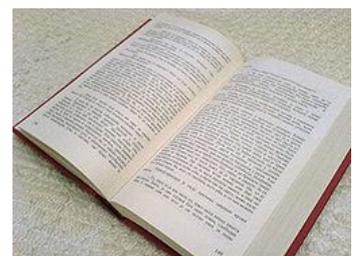
期日までにお振込が確認できない方には、事務局から確認メールをお送りします。

研修に関する連絡をメールにてお知らせ



各言語ごとにメーリングリストを作成し、必要に応じて、研修に関するご連絡を差し上げます。

研修開始



受講上の注意について

- 会場には駐車場はありません。受講時は公共交通機関をご利用ください。
- 本研修の受講生は正規の学生ではありませんので、学割定期券の購入はできません。
- 宿泊施設については、ご自身でご手配くださいますようお願いいたします。

研修会場について

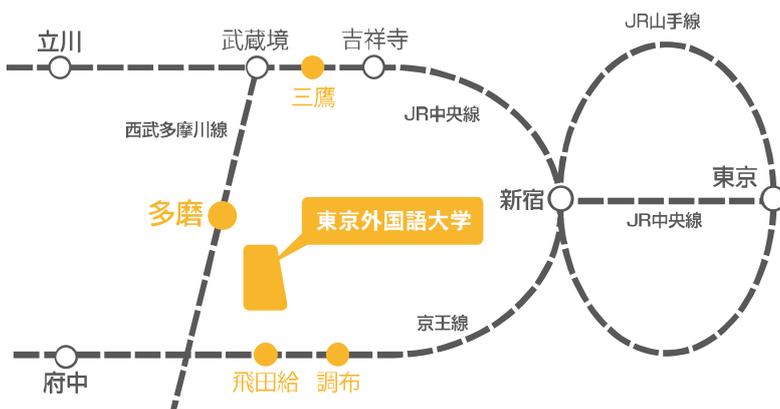
東京会場 [ブルーフィー語、ナワトル語]

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (AA研)

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

TEL 042-330-5600, FAX 042-330-5610

AA研へのアクセス



■ JR中央線「武蔵境駅」から西武多摩川線に乗り「多磨駅」で下車(所要5分)。駅から徒歩5分。
※西武多摩川線は12分間隔。

■ JR中央線「三鷹駅」から小田急バス鷹52系統に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要30分)。停留所から徒歩2分。

※小田急バス時刻表:

<https://transfer.navitime.biz/odakyubus/pc/map/Top?window=diagram>

■ 京王線「飛田給駅」から京王バス飛02系統・調33系統(いずれも多磨駅行き)に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要7分)。停留所から徒歩2分。

※京王バス時刻表: <http://www.bus-navi.com/>



※ アジア・アフリカ言語文化研究所は6番の建物です

ブラーフイー語

》 初学者向け 》 東京会場 》 日本語での授業

ブラーフイー語はパキスタンのバローチスターン州中央部からアフガニスタンやイランにかけて話される言語で、およそ300万人が母語または第二言語として話します。話者であるバローチ人は、この半乾燥地帯で伝統的に遊牧や農耕によって生活してきました。ブラーフイー語は英領時代に存在したカラート藩王国の藩王の言語でもありました。

ブラーフイー語は、バローチスターンで広く通用するイラン系言語のバローチー語とは異なり、インド南部のタミル語やテルグ語などと同じドラヴィダ語族の言語です。動詞の肯定と否定を活用によって区別するといった、ドラヴィダ語族言語の特徴を有しています。インド南部と2000キロ近く離れたバローチスターンでドラヴィダ語族言語が話されることは、南アジアの言語史における最大の謎の一つとされています。

ブラーフイー語は少数言語ですが、ブラーフイー語地域では都市や市場、部族の集会、礼拝などほぼすべての生活の場面で、若年層を含む全世代によって話されます。遊牧民が語る長大な民話や、都市民が書く小説など、文学活動も活発に行われており、ブラーフイー語を学ぶことで豊かな文化にアクセスすることができます。

研修の対象者について

バローチスターンやブラーフイー語、バローチ人、遊牧民に関心のある人。言語学やウルドゥー語やドラヴィダ語族言語の知識は問いません。なお教材はブラーフイー語と英語で書かれていますので、英語を読む能力は必要です。言語調査法ではなく語学の授業として開講しますので、一般の方や研究者を目指していない学生の参加も歓迎します。

研修内容について

本研修では、遊牧生活を題材としてブラーフイー語を学び、話せるようになることを目標とします。講師のリアーカット・アリー先生は遊牧民出身のブラーフイー語母語話者で、バローチスターン大学ブラーフイー学科の准教授として、文学や言語の研究をしてこられました。ブラーフイー語話者は紛争なども自ら解決できる部族連合体を形成しており、受講者がバローチスターンに仕事や研究で行っても円滑に過ごせるよう、社会習慣についても学びます。ブラーフイー語は文学活動もさかんで、民話や現代の短編小説も読むことで、あわせて読解能力を養います。

テキストについて

講師のリアーカット・アリー先生が、遊牧生活の経験をもとに、ブラーフイー社会における生活や習慣を描いた36章の会話編からなるテキスト『Learn Brahui through Nomadic Life』と文法、語彙集、読本を使用します。

研修期間および研修時間について

2026年8月24日(月)～2026年9月16日(水) 90時間(文化講演含む)
午前10時00分～午後4時30分(土・日・祝は休講)

文化講演について

詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします。
<https://www.aa.tufs.ac.jp/projects/training/ilc/>

受講料について

54,000円(教材費込み)

講師プロフィール

小林 正人(こばやし まさと)

東京大学大学院人文社会系研究科 教授

京都大学文学部(梵語学梵文学)卒業、ペンシルバニア大学大学院修了(Ph.D.)。専門は歴史言語学、サンスクリット語、ドラヴィダ比較言語学。2002年の言語研修(ムンダ語)をきっかけに南アジアのドラヴィダ語族少数言語に関心をもち、マルト語、クルフ語、ブラーフイー語、トダ語について文法やテキスト集、辞書を出版した。



Liaquat Ali(リアークット・アリー)

バローチスタン大学ブラーフイー学科 准教授

パキスタン、バローチスタン州の遊牧民の家庭に育つ。バローチスタン大学ブラーフイー学科でブラーフイー文学を学び、博士号取得後同大講師に着任。2022年にはパキスタン高等教育局に派遣されて1年間東京大学で研究し、Brahui Textsを出版した。専門はブラーフイー文学とブラーフイー語の言語学。ブラーフイー文壇でも活躍している。



ナワトル語

》 初学者向け 》 東京会場 》 日本語での授業

ナワトル語は、メキシコの公認先住民語68言語のひとつで、160～170万人の話者を擁する、北アメリカ大陸最大の先住民語でもあります。言語学的には、ひとつの語基が多くの接辞を伴い、ときに非常に長い語が現れる、複統合的 (polysynthetic) な膠着語です。いわゆる「アステカ帝国」の言語としても知られ、植民地期には先住民共通語として、無数の文献が書き残されました。

ひとたびメキシコを旅行すれば、同国におけるナワトル語の影響力のほどを実感できるでしょう。地下鉄に乗れば、パンティラン・コヨアカン・タクバヤといったナワトル語由来の駅名がひしめき、食堂の品書きを見れば、モレ・チラキル・ポソレ・ミシヨテなど、スペイン語とは異なる独特の響きをした料理名が並びます。数ある先住民語のなかでも、ナワトル語は現代メキシコ人の生活と切っても切れない言語なのです。近年はここ日本でも、アステカ神話に取材した小説やゲームキャラクターの人気もあって、博物館のメソアメリカ展が大盛況を見せるなど、同地域への関心の高まりを感じます。

今回の講座では、現代ナワトル語の最大方言であるワステカ・ナワトル語の母語話者を講師にお招きし、現代語と、文献に残る古典ナワトル語(植民地ナワトル語)の両方に親しむことを企図しています。

研修の対象者について

メキシコをはじめとする南北アメリカ大陸の先住民の言語・文化・歴史・社会に興味のある方はもちろん、神話や考古学に関心のある方や、言語学的な観点から複統合的 (polysynthetic) な主要部標示型 (head-marking) 言語を学んでみたい方まで、あらゆる方の参加を歓迎します。さまざまな背景をお持ちの方々に、それぞれ知見や問題意識を持ち寄っていただくことで、はじめて私たちの講座が意義あるものになると考えています。

とりわけ、言語学や音声学の基礎を修めている方や、少しでもスペイン語を学んだ経験のある方には、研修中、大いに活躍していただけることでしょう。もちろん、これらは決して必須ではありません。また、メキシコ人を講師にお迎えする関係上、希望する方は、スペイン語の練習も同時にできるはずです。

研修内容について

現代ナワトル語と、大航海時代の古典ナワトル語(植民地期ナワトル語)の双方を行き来しつつ、会話練習、ナワトル語学の講義、テキストの読解、言語調査の演習などを同時進行で行います。1日5時間の講座を50分×6回の「科目」に分け、毎日、各テーマの実習を少しずつ進めていく予定です。

研修修了時まで、現代ワステカ方言の簡単な日常会話や作文・読解ができることはもちろん、ナワトル語学の基礎や主要な工具書の知識を身につけ、研修後すぐにでも現地調査や古文書読解の実践が始められるようになることを目指します。

テキストについて

担当講師による本講座独自のテキストを使用します。

研修期間および研修時間について

2026年8月24日(月)～2026年9月16日(水) 90時間(文化講演含む)
午前10時00分～午後5時00分(土・日・祝は休講)

文化講演について

詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします。

<https://www.aa.tufs.ac.jp/projects/training/ilc/>

受講料について

54,000円(教材費込み)

講師プロフィール

佐々木充文 (ささき みつや)

現職：東京科学大学ほか非常勤講師

千葉県出身。東京大学文学部在籍時の2008年頃から、ナワトル語をはじめとするアメリカ先住民諸語の理論言語学的・類型論的特性に関心を持ち、同大学院修士課程では古典ナワトル語(植民地ナワトル語)を、博士課程では現代ナワトル語を研究。2016年から、日本学術振興会海外特別研究員としてメキシコ国立自治大学文献学研究所に派遣、西プエブラ山地方言の記述に従事。博士課程満期退学ののち、博士論文「ナワトル語イシュキワカン方言の階層構造的性」で博士号を取得。現在の主な関心分野は形態統語論、情報構造、方言学。2022年より、放送大学東京文京学習センターで面接授業「古典ナワトル語初歩：文法の基礎」を担当。

Victoriano de la Cruz Cruz
(ビクトリアノ・デ・ラ・クルス・クルス)

現職：ベラクルス州先住民語アカデミー (AVELI) 所長、

復興運動団体「ヨーリーティア・アメリカ先住民語センター」所長
ベラクルス州チコンテペク郡テポステコ出身。ワステカ・ナワトル語母語話者。ナワトル語教師・言語学者・翻訳家・公認通訳士として、メキシコ先住民の言語権・文化権の擁護に尽力。2010年にメキシコシティの社会人類学高等研究センター (CIESAS) でアメリカ先住民語言学の修士号を、2021年にグアダラハラ西部工科・高等教育大学 (ITESO) で人権および平和学の修士号を取得。「先住民族・アフリカ系メキシコ人およびその共同体」課程修了。これまでに、メキシコ国内のみならず、カリフォルニア大学バークレー校、ヴァンダービルト大学、イェール大学といったアメリカ合衆国の諸大学や、カナダのヴィクトリア大学・サスカチュワン大学、ヨーロッパのワルシャワ大学・セビーリャ大学でナワトル語を指導。小説『ペドロ・パラモ』、エミリアノ・サパタ「アヤラ綱領」ナワトル語版翻訳者。

